

奈良県立医科大学
社会医学研究会
2013 年度活動報告

vol.7

AMSA 活動報告

医学科 4 年 阪田武

◆ AMSA とは？

AMSA: Asian Medical Students' Association (アジア医学生連絡協議会) は 1985 年に設立された学生 NGO 団体であり、アジアの保健医療の向上とヒューマンネットワークの構築を目的に活動しています。AMSA では年に 2 回の国際会議と交換留学を行っています。また、AMSA はアジアを中心に 24 の支部を有し、AMSA Japan もその支部の一つです。AMSA Japan では、支部として独自に国内交流会、会議の報告会、他団体との共催イベント、新歓、追いコンを行っています。現在、AMSA Japan には約 340 名の正会員と約 700 名のメーリングリスト会員がいます。

◆ 2012 年 10 月から 2013 年 9 月までの主な活動

1. 秋の国内交流会 in 熊本

2012 年 10 月 27～28 日の日程で秋の国内交流会が熊本で開催されました。テーマは「医療におけるコミュニケーション」と設定し、主管となった熊本大学が講師の先生をお呼びし、3 つのプログラムを行いました。一つ目の講演では、「自分の立場と相手の立場が対立したときに、どう解決していくのか？」という問題について、有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」の作業療法士である小林夕子先生にお話しいただきました。次に、「医療とメディア」と題し、Mikura True Vision 代表で Ustream 上の番組「ミクラ TV」をされている増本衛先生より、医療とメディアとの関わりについて講演していただきました。最後に、スタッフが考案した傾聴力ワークショップを行いました。傾聴力ワークショップは、話す時の自分の癖を見極めたり、目隠しをした状態での会話が難しいことを実際に体験したりするなど、ユニークな内容でした。53 名の参加者に楽しんでいただくことができ、とても良い交流会となりました。

2. EAMSC 2013 in Tokyo

EAMSC 2013: 26th East Asian Medical Students' Conference (第 26 回東アジア医学生会議) は 2012 年 12 月 26～30 日の日程で、東京医科歯科大学を主会場に開催されました。

19 の国と地域から 350 名の医学生が参加し、5 日間に渡って、災害医療をテーマにディスカッション、発表、病院見学、施設訪問等を行いました。

今回の会議では、災害医療の中でも、亜急性期から慢性期に注目しました。災害発生から 72 時間が経過した後、1 週間、1 か月、3 か月、1 年、10 年と時間が経過していくと、災害医療の内容も次第に変化していきます。長期の不慣れた生活による生活習慣病や心的ストレスによる PTSD など、これまではあまり大きく注目されてこなかった疾患に着目して理解を深めたことは、今会議の成果として大いに評価できるものであると思います。

また、会議最終日には Tokyo Declaration (東京宣言) が採択されました。これは、過去の災害支援の反省を活かし、AMSA での災害支援の方法を定めた宣言です。AMSA 支部に災害が起こった際には、情報収集を行い、被災地の求める物資の支援を行うほか、メッセージを集めたり、募金活動を行ったりすることを決めました。Tokyo Declaration は 2013

年 1 月のインドネシア洪水、10 月のパキスタン地震で実際に運用され、AMSA のネットワークを使って学生による支援が被災地へ届けられています。

日本で国際会議を開催したのは 2008 年の AMSC 以来 4 年ぶりのことでしたが、2 年半に渡る準備のもとに、約 40 名の運営委員と約 60 名のグループモデレーターによって、円滑な運営を行うことができました。他国からも非常に好評価を得、多くの学生に東京での国際会議を満足していただけたことは、運営委員の一人として大変うれしく思います。

3. EAMSC 報告会

2013 年 2 月 17 日、東京医科歯科大学にて、EAMSC 2013 の報告会を開催しました。国際会議で何が話し合われ、各国が何を発表したのかという報告の他に、運営委員会からの報告があり、会議の表も裏も知れる報告会となりました。また、当日来ていただいた外部団体の方から、団体の紹介をいただいたり、「全国をつなげよう！！災害絆プロジェクト」をされている湯澤真さんにディスカッションをしていただいたりしました。参加者からは AMSA の活動内容について知ることができて良かった、プレゼンや論文のスキルまで教えてもらい、非常にためになったなどの感想をいただきました。

4. AMSA International Day

2013 年 3 月 10 日、東京医科歯科大学において AMSA International Day が開催されました。これは今年から始まった新企画であり、各国にしながら国際会議の雰囲気が味わえるよう、各支部同時開催でひとつのテーマについてイベントを開くというものです。今年のテーマは「地域医療」であり、日本支部ではこのテーマを語るに相応しい 3 名の先生方にお越しいただきました。お一人目は一関市国保藤沢病院の佐藤元美先生です。先生からは「住民と話し合う医療」について、住民との対話の重要性を教えてくださいました。お二人目は AMDA 所属の石岡未和先生（看護師）にご講演いただきました。AMDA だけでなく、青年海外協力隊員としてドミニカ共和国にもいかれた経験をお持ちの石岡先生は、優しい雰囲気ながらバイタリティ溢れるご活躍をされており、学生へ向けて「何か自分の専門性を磨くこと」とアドバイスをくださりました。最後に、佐久総合病院にて地域医療を担当されている色平哲郎先生にご講演をいただきました。佐久総合病院では「予防は治療に勝る」を合言葉に生活指導を重点的に行っており、患者さんの側に寄り添い患者さんから学ぶ姿勢の大切さを知ることができました。

5. AMSA 会

2013 年 3 月、京都大学および京都府立医科大学を会場として AMSA 会が開催されました。AMSA 会は AMSA Japan の交流会兼追いコン兼 OBOG 会といった位置づけのイベントで、国内の医学生と AMSA の活動について深く知れる他、卒業される先輩方や医療の現場で働かれる OBOG の方の講演を聞くことができ、まさに AMSA Japan の魅力が結集するイベントとなっています。

今年の AMSA 会では、恒例の卒業生発表に加えて、災害医療ワークショップ、理想の病院について考えるワークショップを行いました。卒業生発表では、先輩方の経験に基づいた貴重なお話を聞くことができました。災害医療ワークショップでは EAMSC 2013 で使われた被災地シナリオをもとに話し合いをし、中長期の災害医療について学びました。理想の病院についてのワークショップでは、温泉とセットにした斬新な健康と医療を提供する病院など面白いアイデアがたくさん生まれ、楽しい会となりました。

6. 新歓

今年の新歓は以下の日程で行いました。

関西新歓：4月20日（土）大阪医科大学

中四国新歓：2013年4月27日（土）岡山大学

九州新歓：2013年4月28日（日）九州大学

関東新歓：2013年4月 日（ ）東京医科歯科大学

各新歓イベントでは、AMSA Japan の紹介と国際会議や国内イベントと AMSEP の広報、AMSA Japan の活動に基づいたワークショップを実施しました。関西新歓では、ビジネスマナー講座、中四国新歓ではトリアージのワークショップ、九州新歓では日本薬学生連盟と合同で PBL (Problem Based Learning) や貿易ゲームを行いました。各地域、多数の参加者に来ていただくことができました。

7. 春の国内交流会

2013年6月15、16日（土、日）に春の国内交流会が小豆島にて開催されました。今回の交流会のテーマは「島」であり、島をキーワードに地域医療や僻地医療について考えました。1日目は小豆島で医療に従事している先生の講演や、現地で醤油づくりをされている方の話を聞き、島の医療の課題について考えるワークショップを実施しました。夜はバーベキューをした後、夜中まで飲んで語り、非常に深い交流ができました。2日目は別の先生にご講演をいただいたのち、医師の研修について考えるワークショップを実施しました。研修のシステムの中で、離島や僻地での研修を義務付けるといったアイデアは面白く、学生も先生も楽しめる良いワークショップとなりました。

8. AMSC 2013 in Malaysia

AMSC 2013: 34th Asian Medical Students' Conference（第34回アジア医学生会議）は2013年7月3～10日の日程で、クアラルンプールにおいて開催されました。今会議のテーマは地域医療であり、地域医療についての基調講演や各国の研究発表、ディスカッション、施設訪問が行われました。特に印象に残ったのはクアラルンプール郊外の村を訪れた Community Service というプログラムで、村では子供たちと交流したり、お年寄りの家を訪問することによって、現地の暮らしを感じることができました。

9. Medical Future Fes 2013 ワークショップ出展

2013年8月31日（土）、東京において開催された医学生ラウンジ主催のイベント、Medical Future Fes 2013 において AMSA Japan はワークショップを出展しました。「マラリアの撲滅」をテーマに国際的な話し合いを模擬体験するワークショップであり、参加者を香港、タイ、インドネシア、インドの代表者として割り振り、それぞれを代表して話し合いを行いました。

10. AMSC 報告会

AMSC 報告会は以下の日程で行われました。

九州：2013年9月1日（日）佐賀大学

関西：2013年9月7日（土）奈良県立医科大学

関東：2013年9月7日（土）東京医科歯科大学

より多くの日本の学生に国際会議での経験をフィードバックしようというコンセプトのもと、今年は3つの地域で AMSC（アジア医学生会議）の報告会を実施しました。報告会と言っても、単に会議参加者の話を聞くだけでなく、実際に会議で学んだことを体感でき

るように、複数のワークショップも実施しました。

ワークショップは 2 つ行われ、一つ目のワークショップの内容は「地域で肥満対策を考える」でした。医療は医療者が提供するものではなく、地域の住民が主体的に作っていくものであり、医療者は専門家としてそのサポートをするという概念を理解するためのワークショップでした。二つ目のワークショップは「母乳栄養」について。このワークショップは実際にマレーシアで行われたワークショップを再現したものであり、母乳栄養の重要性をロールプレイを通して学ぶというものでした。

11. OBOG 会

2013 年 9 月 7 日（土）、東京駅近くのビルで AMSA Japan の OBOG 会を開催しました。多くの先生にお越しいただき、先生と話す中で、これまでの AMSA の活動を知り、これからの活動についてアドバイスをいただくことができました。

IFMSA 活動報告

医学科 3 年 岩倉真也

世界で最もポピュラーな医学生団体です。

大きく分けて、主に 5 つの分野に分かれて活動しています。

- ① 交換留学に関する委員会 ・ ・ 非常に **reasonable** に留学できます。詳しくは、HP で！
- ② 公衆衛生に関する委員会
- ③ 性と生殖・AIDS に関する委員会
- ④ 人権と平和に関する委員会
- ⑤ 医学教育に関する委員会

それぞれ大変魅力的な活動をしております。詳しくは、ホームページの <http://ifmsa.jp> まで！

IFMSA-JAPAN 国内最大級のイベント日本総会 NGA が 10 月 12～14 日に国立オリンピック記念青少年総合センターにて行われました。奈良医大生を含め大変多くの人が参加しました。毎年この時期に開催していますので、まだ参加していない方は、是非ご参加ください。刺激的で魅力的なボリュームたっぷりの 3 日間となっております。

奈良医大で特に活発なのは、TRAINING という部門です。大勢の前に出て、どうすれば、プレゼンテーションを上手くすることが出来るのかを実際に参加者にロールプレイなどで体験してもらおう。そうすることで実際のスキルをその場で上げてもらうという部門です。今年は、New trainers が生まれる TNT を奈良医大で開催しました。多くの奈良医大生が trainer になって、活発に活動してくれています。また、12 月 8 日 @大阪医科大学でイベントも行います！詳しくは、HP で！

一番簡単で気軽にできるのは、IFMSA の無料メーリングリストに登録することです。ただそれだけで、色々な学生が本当に魅力的な活動を行っていることが良くお分かりいただけると思います。もちろん、興味があればぜひさんかしてください！あなたの新しい第一歩をお待ちしております。

分からないことがあれば、岩倉 080-4564-4321 まで

みのむしの会

医学科 2年 本橋和也

みのむしの会は発達障害の子どもとその家族とふれあう会です。月に一回、生駒市の福祉施設で活動しています。障害をもつ子どもと家族の方々だけでなく、小児科の先生、動作法の先生、訪問看護師、養護教諭の先生、学生と様々な職種の人が集まります。学生は奈良医大、奈良女子大などから参加し、子どもたちと遊んだりご家族や先生方の話を聞いたりしています。

みのむしの会の主な活動は子どもたちと直に接することです。時間による細かい束縛はなく、自由に遊ぶことができます。初めて参加したときに子どもから「あそぼ」と声をかけてくれたのはとても嬉しかったです。初めはすみで静かにしていた子どもが徐々に慣れてきて折り紙を教えてくれるようになったことも嬉しかったです。障害にとらわれず、明るく楽しく遊んでいる子どもたちを見ていると元気をもらえます。

また、普段の活動以外に年一回、みのむしキャンプが行われます。毎年夏の終わりに一泊二日でキャンプをし、子どもたちと遊ぶだけでなく一緒にお風呂に入るといった基調な体験をすることができます。今年初めて参加しましたが、思うように体を洗えず苦戦した一方で、服の着脱を自分でこなしたり逆にシャワーでお湯をかけてくれたりとほほえましかったです。夜には飲み会が開かれ、ご家族の本年を聞けて興味深かったです。

病院で医師と患者として接するだけではご家族の本当の思いや子どもの元気な姿を知ることはできません。臨床で学べない範囲をいつもみのむしの会で学ばせていただいています。

てくてくの会

医学科 3年 大西里奈

京都府木津川市の地域で主に第4日曜日に活動しています。こどもはこどもの中で育つ、人は地域の中で支えあっていくと考え、誰もが安心し、充実した生活を送ることの出来る地域での生活を目指すという考えの下、障害の有無に関わらず集まったお子さんとそのご家族が、音楽療法を通して身体を動かして遊び、皆でふれあいながら楽しく活動しています。学生は会場の設営等の手伝い、そして子どもたちに混ざって会に参加しています。また、ご両親がスタッフと子育てに関する相談をしている間、子どもたちとおもいきり遊んでいます。

私はてくてくに行き始めて4年程経ちますが、毎回行く度にたくさんの事を学ばせてい

ただいています。まず、子供の成長が目に見えてわかることです。つかまり立ちをしていた子が私の前でふと初めてつかまらず歩く事が出来た事には驚きました。他にも一カ月の間で身長が伸びている気がしたり、兄弟を思いやる言動が増えたり。ほっこりするような気持ちになります。また、子供の表情の変化や振る舞いから、今どんな気持ちで何を訴えようとしているのかを考えるようになりました。『今、私はこの子の気持ちをくみ取れているのかな』と、不安は今でもありますが、いつも意識しようと思います。一方で、ご両親の子育ての不安も垣間見ることができます。医療人では気づきにくい、ご両親だからこそ気づく意見が多く、それは医療人になってから活かせることと思います。会終了後、スタッフ陣で次回のおてくおの会の企画を練るのですが、そこでも子供やご家族に対する細かな配慮がスタッフ陣によりなされ、大変勉強になっています。

また、奈良医大の他に、奈良女子大学のサークル”わかたけの会”からもてくおに参加している学生さんがいらっしゃるのです、その方たちとの交流も深めています。自分たちとは違った分野で学んでおられる方たちとの交流はお互いに良い刺激になっていると思います。今年の1年生のなかにも、春から継続して参加してくれている方がいます。どんな活動も継続することは大切なことだと思います。ですが、まだ一度もてくおに参加したことがない、あるいは以前一度参加したことがある、などという方もたくさんおられると思います。興味を持ってもらえたら、まずは一度参加してみてください。きっと自分なりに感じる事、考えることがあると思います。

ホスピスボランティア

医学科5年 橋口康弘

ホスピスボランティアは社会医学研究会の一分会として田原本にある国保中央病院の緩和ケアホーム『飛鳥』にてボランティア活動を行なっています。ホスピスとは治癒を目的とした治療が困難となった患者さんの身体的・精神的苦痛を和らげ、残された時間を有意義に、また尊厳をもって過ごせるようにすることを目的につくられています。一般病棟とは違い、ホスピスには患者さんがリラックスして過ごせるような工夫が随所に見られます。病室をはじめ、廊下やリビングルームは暖かい印象を受ける暖色系で統一され、催し物などができるリビングルーム、一人で物思いに耽る瞑想室、家族の方が泊まるための家族室などがあります。1階には大きな庭があり、ご家族の方と散歩などもできるようになっています。また、病室からはのどかな田園風景を臨むことができます。

私たち学生ボランティアは少しでもホスピスという場所が患者さんにとって癒しの場所となればと思い活動させていただいています。活動内容は、リビングルームの巨大な窓に季節ごとの飾りつけをしたり、患者さんやそのご家族にハーブティーを提供したりしています。夏にはスイカやかき氷、秋にはハロウィンやお月見、冬にはクリスマスや雪だるま、春には桜やひな祭りなどの飾りつけをします。リビングにこられた患者さんやご家族の方に『この飾り付けには心が癒される。』『上手だね。』などと言ってくれたいこともあり、励みになっています。中には、一緒に飾りつけを作っていた方もいらっしゃいました。また時には、自分がホスピスに入所するまでの経緯や病状、身の上話をして下さる方もいます。最後にはみなさんが『いいお医者さん、看護師さんになりや。』と言ってくださいます。ハーブティを召し上がっていただいた方の中には、昔、教師をしておられた方

がいらっしゃって、御自分のこれまでの人生を振り返り、私たちに様々な教訓・人生観を語ってくださった方がいました。この時のお話は自分の現状・考え方・将来像を考え直す大きなきっかけになりました。その方は『友人と落語を見に行きたいから、その時までは生きていなければならない。』とおっしゃっていましたが、落語を無事に見に行った数日後に他界されました。死ぬ間際まで人生の中に愉しみを見出し、それを目標に生き続けた姿に私は感動しました。人間はどんなときでも目標や夢を持つことで生きる力を得ることが出来るんだと教わりました。

ホスピスに行くところな風に患者さんやそのご家族の方、また、そこで働いておられる方々とお話をさせていただく機会を持つことができます。ボランティアという名のもとに活動してはいますが、将来医療人になる私たちにとって、その中で得るものは大きく、勉強させてもらっていると云った方が正確かもしれません。

医療者は患者さんと同じ気持ちになることはできません。どうあがいても患者さんの気持ちはその本人にしか分かるものではないでしょう。ですが、患者さんの話を聞くことで、

患者さんがどのような心境にいるのかということは理解出来ます。そうすることで、少しでも患者さんの心に寄り添える医療人なればと考え、私は参加しています。

現在、ホスピスボランティアは月に1～2回のペースで行なっています。事前に参加希望者の予定を聞き、それに合わせて日程を組んでいます。興味のある方は、是非気軽に参加していただければと思います。

手話の会

医学科 4 回 南里直実

手話の会では、基本的な名詞・形容詞・動詞や、数、指文字などを覚えて、簡単な挨拶や会話ができるようになることを目標に、みんなで勉強しています。毎週金曜日に、大講堂の会議室で行っています。前期は、前年度の手話の会のスケジュールと同じように、主に単語を覚えていきました。後期は、会話ができるようになることを目標にして進めたいと思っています。

お昼休みの限られた時間の中でも、毎回決まって参加してくれる 1,2 年生がいるため、楽しく賑やかに活動しています。私も手話をきちんと勉強することは初めてで、手探り状態ですが、参加者に励まされながら続けています。

今年手話の会を担当するにあたって、私の地元で行われている手話サークルに通うようになったのですが、そこは実際にろうの方が運営しておられ、講師もろうの方がされています。その中で、手話の難しさを痛感すると同時に、手話が本当に大切なものだということがわかりました。日常生活で手話を使ってコミュニケーションを取れることで、とても助かっているというお話を聞きました。また、膨大な量の手話を覚えるのは大変ですが、きちんとした手話を使えなくても、簡単な手話や指文字、身振り手振りや口の動きなどを使ってこちらからしっかり伝えようとするれば、相手の方は理解してくれます。なので、伝えることは諦めないでいいと思いました。実際にコミュニケーションを取れるととても嬉しいです。手話の会では、わたしが感じた手話の大切さも伝えていけたらと思います。週 1 回のお昼休みだけという限られた時間ではありますが、手話の楽しさや大切さを知って、簡単にでも会話ができるようにみんなで勉強しているので、興味のある方は、ぜひ一度覗きにきてみてください♪

ぬいぐるみ病院

医学科 2 年 浅田萌

ぬいぐるみ病院は、主に 2 つの目的をもって活動しています。

- ①お医者さんごっこを通じて、子供達に医療を身近に感じてもらい、病院に対する恐怖心を軽減すること
 - ②健康に関する劇を通じて、自身の身体や健康、病気の予納の大切さについて知ってもらうこと。
- また、私達学生にとっても、子供達とのコミュニケーションについて学ばせて頂く非常に良い機会となっています。

今年度は 8 月 27 日に、真菅のひかり保育園でぬいぐるみ病院を開催させて頂きました。

今年度の参加者は11名で、少々人手が足りないのではと危惧しましたが、経験を積まれた先輩方や意欲ある後輩達に支えられ、なんとか本番を迎えることができました。お医者さんごっこでは、今年は練習時になるべく難しいケースを持ってこることで、本番に焦らず診察できるよう努めました。またカルテを一新し、より見やすく、かつ医師・看護師役が短時間で記入しやすいように工夫しました。その結果、お医者さんごっこでは落ち着いて診察をしてもらえたようです。劇では、「手洗い・うがいは大切！」をテーマとしました。基本的な事ですが、病気予防としての側面を考え、このテーマにしました。その際、「てあらいのうた」という歌を使ってもらい、子供達に楽しく、正しい手洗いの仕方について知ってもらえるようにしました。子供達には楽しく取り組んでもらえたようです。反省点としては、時間の管理不足や道具の量がギリギリであったことが挙げられます。次年度からは、タイムチェッカー役を設置し、また余裕を持って道具を準備することでこの2点を改善していくつもりです。上に挙げた反省点・成功した点や先輩からのアドバイスを生かし、ぬいぐるみ病院の活動をより良くしていきたいと思っております。興味のある方は是非参加してみてください！

花の家ボランティア

医学科4年 南里直実

「花の家」とは、橿原神宮前駅の近くにあるデイサービスセンターです。花の家ボランティアでは、月に1～2回、参加者の都合に合わせて、花の家にお邪魔させていただいています。ボランティアの内容は、花の家を利用されているお年寄りの方とお話をさせていただいたり、一緒に貼り絵をしたり、黒ひげや紙風船、麻雀などのゲームをしたりしています。お昼には、花の家さんで手作りされているお昼ご飯を一緒にいただいています。

花の家ボランティアは2011年3月にスタートしました。地域健康医学教室教授の車谷典男先生や当時橿原市役所 橿原市民協働課 課長補佐でいらした辰井保千代さんなど多くの方の協力をいただきました。奈良医大に通う学生として、もっと地域とのかかわりを持ってほしいというお二人の思いを学生が引き継がせていただきました。花の家の所長の濱田しま子さんは、ボランティアに参加したいという依頼を快く引き受けてくださいました。また、濱田さんは、ボランティアに参加する中で、ボランティアに参加する意味や、お年寄りの方・認知症の方との会話で大切なことなど、たくさんのアドバイスをくださっています。

去年はあまり活動出来ていませんでしたが、今年入部してくれた1年生や、去年から参加したかったけど出来ていなかった学生さんがたくさん参加してくださって、花の家に通い続けることが出来ています。1年生の中には、初めはお年寄りの方とうまくコミュニケーションが取れなかったけれども、今は麻雀仲間として参加を心待ちにされている人もいます。

将来、わたしたちが医療者になったとき、お年寄りの方・認知症の方と接する機会は多くあると思います。わたしたちは花の家ボランティアを通して、そういった方とのコミュニケーションの取り方を学ばせていただいています。また、リアルな介護の現場を見ることで、実際に地域の方が抱えておられる問題を身を持って知ることが出来ます。さらに、

それ以前に、人生経験豊かなお年寄りの方、生き生きと働いておられるスタッフの方とお話ししていると元気をいただけます。参加者の方それぞれに参加の仕方や参加する理由があると思います。興味のある方は、ぜひ一度参加してみてください^^

学祭活動報告

医学科2年 阿部 咲良、城之内 友

梨

今年の白櫃生祭では、昨年のワッフルとは異なり、パンケーキの模擬店を出しました。社会医学研究会は毎年内容の異なる模擬店を出せるので、他部活の方達からも好評で沢山の方々にパンケーキを食べていただけることができました。パンケーキの生地、トッピングともに何種類か揃えたので、好みのものを選んでもらえるように工夫しました。またパンケーキにソースで絵を描くサービスも設けたのですが、喜んでいただきました。社会医学研究会は個人個人が好きなボランティアに参加する形をとっている部活なので、自分の参加するボランティア以外の部員とはあまり接する機会がありません。学園祭の模擬店では、いろんな部員が時間を見つけて手伝いに来てくれるので、顔を合わせて話せる良い機会となりました。模擬店は二年生が中心となって取り仕切るのですが、先輩方に沢山助けいただきました。また一年生にも積極的に模擬店の手伝いをしてもらえたので非常に頼もしかったです。

今年の白櫃生祭の一日目は台風の影響に伴い中止となりました。二日目のみの開催となりましたが、今年の白櫃生祭はオープンキャンパスが同時に行われたため、高校生にも多く訪れてもらい非常に賑やかな学園祭となりました。今年は新入部員が多かったこともあり、来年の新入生にも社会医学研究会という部活に興味を持ってもらえたらいいなと思います。また、付属病院の患者さんや、花の家の方も社会医学研修会の部員と共に文化祭を訪れていただきました。いつもとは違った雰囲気を楽しんでもらえたようで良かったです。

あとがき

今年度も社医研の第7回目の部誌を発行するにあたり、各活動の代表の方に活動報告を執筆して頂きました。快くお引き受け頂いたことに感謝申し上げます。部員数が多く、活動への参加の仕方も様々であるという社医研の特徴から、なかなか1つの部活としての動きが見えにくい部分もあることが事実です。そういった中で、このように各活動の様子を知るとはとても大切なことであり、これを機に新たな活動を初めればさらに部員の輪が広がっていくことにつながるのではないかと思います。社医研に入部したけれど、なかなか活動に参加できず、社医研から離れてしまっている人もおられるかと思えます。そんな方は、まず活動をされている方に気軽に話を聞いてみてください。そして、もし興味をもたれたら活動の様子を覗いてみてください。また、活動には参加できなくても報告会や新歓・追いコンに参加して、部員の方と交流していただくだけでもいいと思います。また、日ごろから積極的に活動に参加しておられる方々は、ぜひその活動を続けていってもらえたらと思います。学生生活の中で、無理せず、自分なりの社医研との関わり方を見つけてもらえたら嬉しく思います。また社医研が部員の方々にとって刺激的で、学生生活をより豊かにするような場になるよう、微力ながらも引き続き部の運営に尽力していきたいと思えます。

今年度は、医学科8名、看護科16名の計24名の先輩方がご卒業されます。今私たちがこうして様々な活動を行うことができるのは、社医研という部活をここまで引っ張ってきてくださった先輩方のおかげです。私たち後輩は、歴代の先輩方が大切に引き継いでこられた社医研をしっかりと受け継ぎ、またいつそう盛り上げていけるよう励んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、社医研を運営するにあたり、嶋先生をはじめ、OB・OGの方々、先輩方、副部長の國近くん、同学・後輩のみなさん、その他多くの方々に助けて頂き有難うございます。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2013年11月15日
2013年度部長 大西 里奈